

参考資料

2012年度中間期 業績の概要

2012年11月14日
ソニー銀行株式会社

損益の状況(1):財務会計ベース

< 連結・単体 >

金額は億円未満切捨て(役務取引等収支を除く)、増減率は四捨五入で表示

(単位:億円)

< 連結 >

● 連結業務粗利益

前年同期比3億円増加の104億円。
 主な要因は、住宅ローンを中心とした貸出資産の拡大と、スマートリンクネットワークの子会社化(2011年7月)。

● 連結経常利益

前年同期比横ばいの21億円。

● 中間純利益

前年同期比9億円増加の18億円。
 ソニーバンク証券の譲渡に伴う税効果により増益。

< 単体 >

● 業務粗利益

前年同期比3億円減少の89億円。
 住宅ローン取引に係る利益は増加したものの、外貨関連取引に係る利益が減少。

● 経常利益

前年同期比2億円減少の19億円。

● 中間純利益

前年同期比18億円減少の5億円。
 ソニーバンク証券株式の譲渡に係る損失発生により、純損失を計上。

| | < 6ヶ月累計 > | 2011年度 上期 | 2012年度 上期 | 前年同期比 | |
|----|-----------|--------------|--------------|-------|---------|
| 連結 | 業務粗利益 | 101 | 104 | +3 | +3.0% |
| | 経常利益 | 21 | 21 | 0 | 0.8% |
| | 中間純利益 | 9 | 18 | +9 | +105.9% |

| | | | | | |
|----|---------|-----|-----|-----|-------|
| 単体 | 業務粗利益 | 93 | 89 | 3 | 4.2% |
| | 資金運用収支 | 78 | 83 | +5 | +6.6% |
| | 役務取引等収支 | 0.8 | 0.1 | 0.7 | 87.2% |
| | その他業務収支 | 14 | 5 | 8 | 59.5% |
| | 営業経費 | 68 | 69 | +1 | +2.1% |
| | 経常利益 | 22 | 19 | 2 | 11.6% |
| | 中間純利益 | 12 | 5 | 18 | |
| | 業務純益 | 23 | 20 | 2 | 12.4% |

損益の状況(2) : 社内管理ベース

< 単体 >

- 資金利鞘は前年同期比やや縮小したものの、資金収支は業容の拡大により前年同期比2億円増加。
- 手数料等収支は、外貨関連取引に係る利益が減少し、同3億円減少。

| < 6ヶ月累計 > | 2011年度 上期 | 2012年度 上期 | 前年同期比 | |
|----------------------|--------------|--------------|-------|-------|
| 業務粗利益 | 93 | 89 | 3 | 4.2% |
| 資金収支*1 | 83 | 85 | +2 | +2.5% |
| 手数料等収支*2 | 6 | 2 | 3 | 55.0% |
| その他収支*3 | 3 | 1 | 2 | 69.2% |
| コアベース業務粗利益(A) = + | 89 | 88 | 1 | 1.4% |
| 営業経費等 | 69 | 68 | 1 | 1.4% |
| コアベース業務純益 = (A) - | 19 | 19 | 0 | 1.2% |

金額は億円未満切捨て、増減率は四捨五入で表示

当期より、社内管理ベースの算出方法を一部変更しました。そのため、2011年度上期につきましても、当期と同様の算出を行った場合の金額を記載しています。

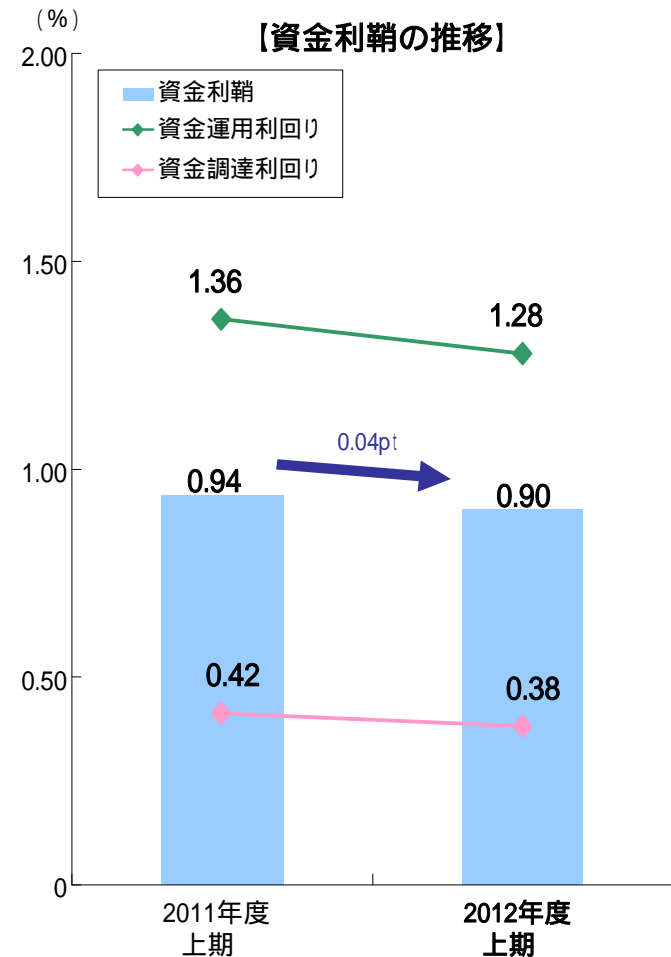
社内管理ベース 損益の実態をより適切に表すよう、財務会計ベースに以下の調整を加えたもの

*1 資金収支...資金運用収支 + その他業務収支に計上されている実質的な資金運用にかかる損益(為替スワップ収益等)

*2 手数料等収支...役務取引等収支 + その他業務収支に計上されているお客さまとの外貨売買取引にかかる収益

*3 その他収支...その他業務収支より*1と*2の調整分を控除したもの。主な内容は債券関係損益およびデリバティブ関連損益

コアベース 社内管理ベースのその他収支(主に債券関係損益およびデリバティブ関連損益)を除いたもので、当社の基礎的な収益を表すもの

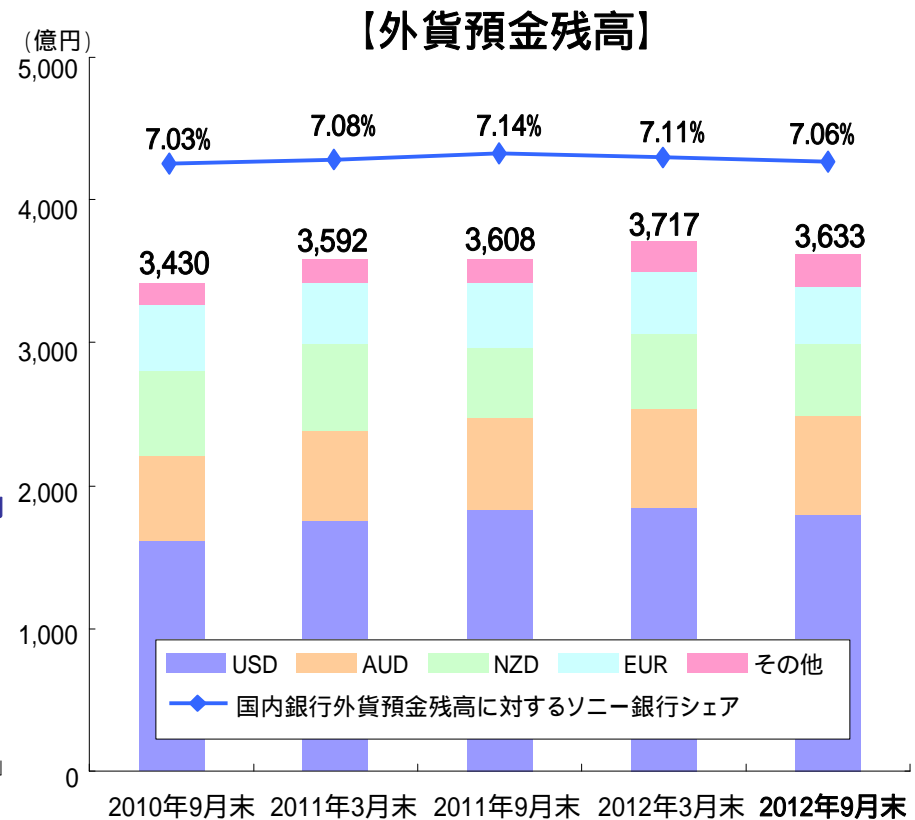
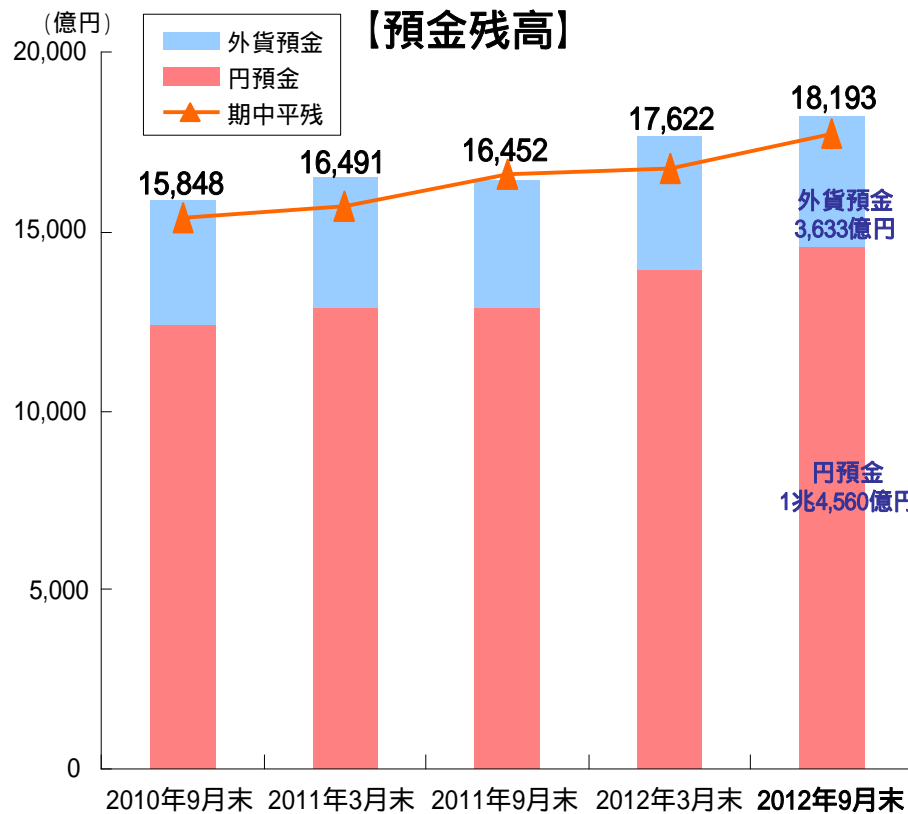


預金の状況

< 単体 >

- 預金残高は、前年度末比571億円増加の1兆8,193億円。円預金は、夏のボーナスシーズン特別企画効果で増加したものの、外貨預金は、円高進行による円換算の影響(209億円)で同83億円減少。
- 2012年9月末の預かり資産残高(預金 + 投資信託)は1兆9,215億円。口座数は約91万件。

金額は億円未満切捨てで表示



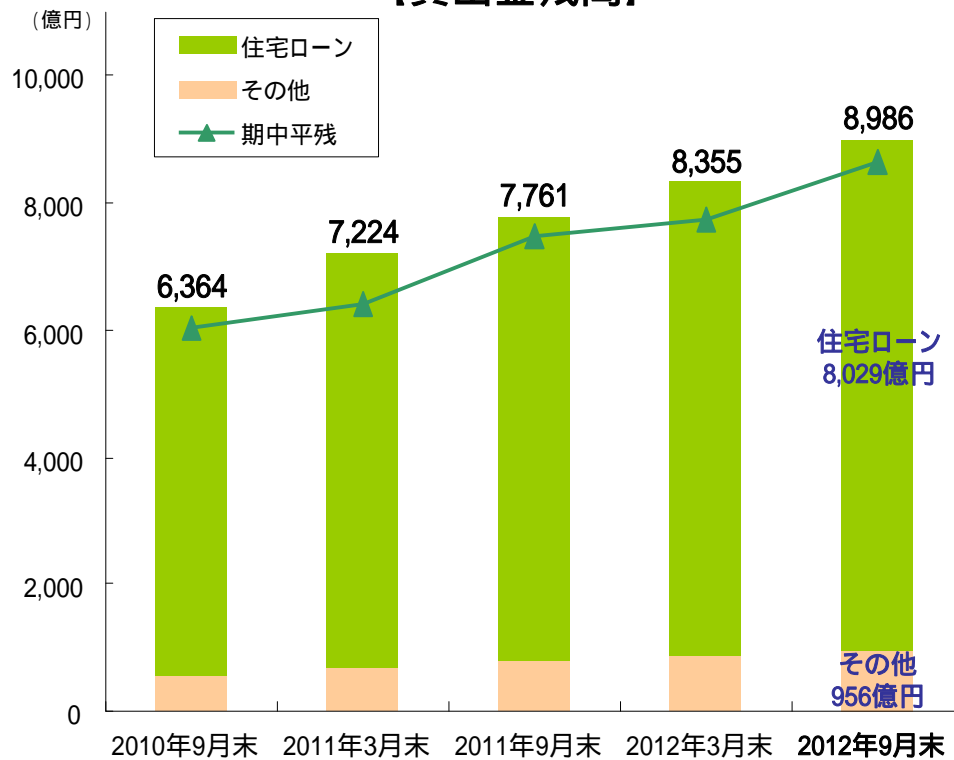
貸出金の状況

< 単体 >

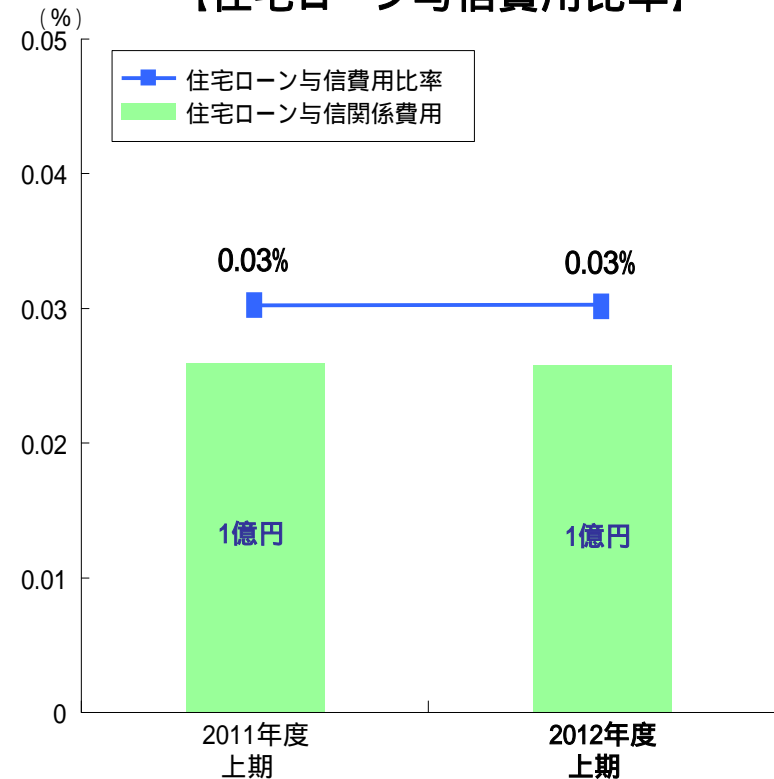
- 貸出金は、住宅ローンが着実に増加し、前年度末比630億円増加の8,986億円。
- 住宅ローン与信費用比率は、前年同期に引き続き低水準を維持。

金額は億円未満切捨てで表示

【貸出金残高】



【住宅ローン与信費用比率】



住宅ローン与信費用比率(年率換算) = 住宅ローン与信関係費用 ÷ 住宅ローン平残
 住宅ローン与信関係費用 = 貸出金償却(住宅ローン) + 貸倒引当金繰入額(住宅ローン)

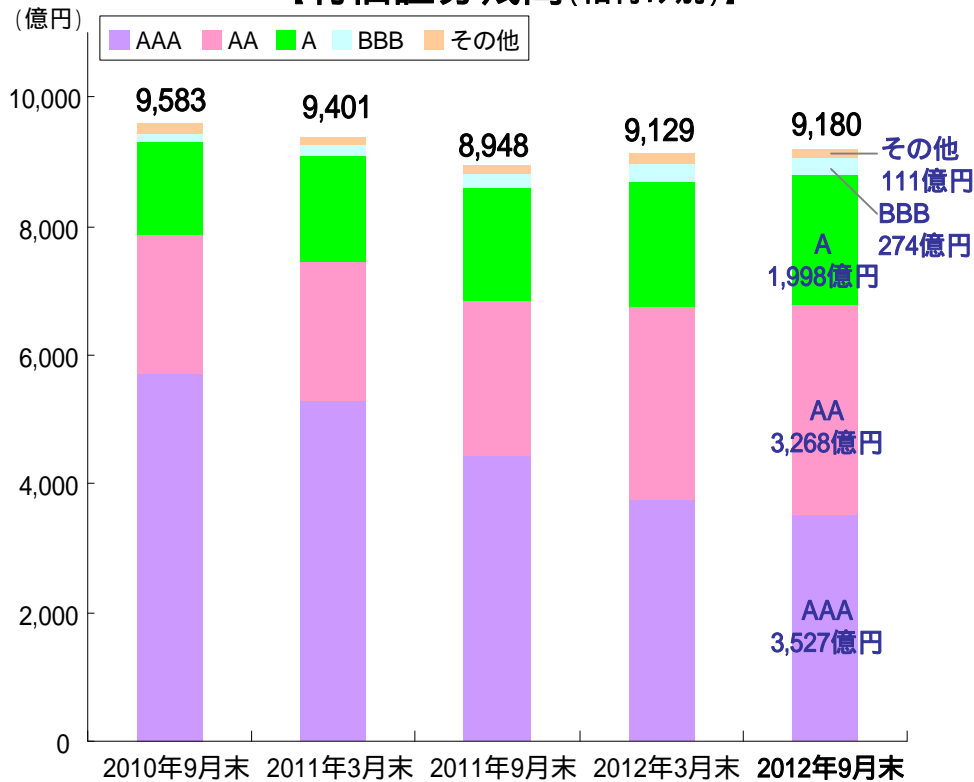
有価証券の状況

< 単体 >

- 有価証券は、高格付けの債券で安定的に運用。引き続き、AAA～A格の債券が全体の9割強を占める。
- その他有価証券評価差額金(税効果会計適用前)は40億円。

金額は億円未満切捨てで表示

【有価証券残高(格付け別)】



【その他有価証券の内訳】

(単位:億円)

| | 2012年3月末 | 2012年9月末 |
|-----------------------------|----------|----------|
| 債券 | 5,079 | 5,149 |
| 国債 | 1,945 | 2,113 |
| 地方債 | 291 | 617 |
| 社債 | 2,842 | 2,417 |
| その他 | 3,849 | 3,911 |
| 外国債券 | 3,764 | 3,829 |
| その他の証券 | 85 | 82 |
| 合計 | 8,929 | 9,060 |
| < その他有価証券評価差額金 (税効果会計適用前) > | < 26 > | < 40 > |

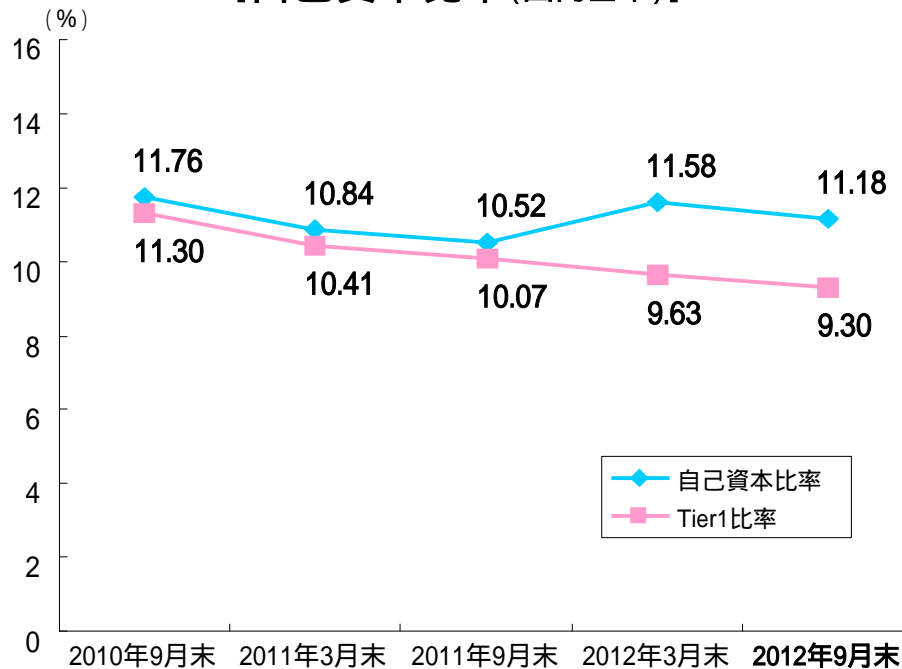
時価のあるその他有価証券の貸借対照表計上額内訳

自己資本比率・格付け情報

< 単体 >

- 自己資本比率は11.18%と、健全な水準を維持。

【自己資本比率(国内基準)】



平成18年金融庁告示第19号「銀行法第14条の2の規定に基づき、銀行がその保有する資産等に照らし自己資本の充実の状況が適当であるかどうかを判断するための基準」に基づき算出している。また、2011年度までは平成20年金融庁告示第79号を適用しており、2012年度以降は平成24年金融庁告示第56号を適用している。

【格付け(2012年9月末現在)】

| | |
|------------------------|-------------|
| スタンダード&プアーズ | |
| 長期カウンターパーティー格付け「A」 | アウトルック「安定的」 |
| 短期カウンターパーティー格付け「A - 1」 | |
| 日本格付研究所 | |
| 長期優先債務格付け「AA - 」 | 見通し「安定的」 |

2012年4月以降の主なサービス拡充施策(2012年11月発表分まで)

● お客さまの分散投資をサポート

- ・外貨預金に、中国人民元(CNH)・南アフリカランド・スウェーデンクローナを追加(2012年10月)
取り扱い全12通貨の為替手数料引き下げも実施予定(2012年12月)
- ・外国為替証拠金取引(FX)においても、取引手数料を無料化(2012年4月)
- ・金融商品仲介サービス拡充を目的に、マネックスグループとの事業提携を強化するとともに
ソニーバンク証券株式を譲渡(2012年8月)
2013年1月より、新しい金融商品仲介サービスを提供予定
- ・投資信託では、海外資産の債券やREITなどに投資するファンドを追加(2012年7月・10月)

● お客さまの多様な住宅資金ニーズに対応

- ・中古マンション購入やリフォームへのニーズに一層対応するため、
LIXILグループとの提携住宅ローンを開始(2012年7月)

● セキュリティ強化への取り組み

- ・新しいセキュリティサービスとして、ワンタイムパスワードを導入(2012年7月)